

資料1

甲賀の國づくりプロジェクト—甲賀流まち・ひと・しごと創生総合戦略—（素案） に係るパブリックコメント結果（意見の概要と市の考え方）について

意見提出期間	平成27年12月21日（月）～平成28年1月20日（水）		
意見提出者数	3人	意見件数	7件

No.	該当箇所	いただいたご意見の要旨	ご意見に対する市の考え方
1	戦略編 P.4	「シティ・プロモーション」の表現よりも「シティ・セールス」の方がわかりやすいのではないか。	まちを売り込む視点から「シティ・セールス」で統一します。
2	戦略編 P.4	「ふるさと集落生活圏の形成」の集落生活圏は小学校区単位で進めるのか。	ふるさと集落生活圏の単位は、小学校区または中学校区単位を想定していますが、地域の特色に合わせて、市民との対話を重ねながら、確かな方向性をもって決めてまいります。
3	戦略編 P.4	「都市機能の最適化と各地域の特色を活かしたまちづくりを進める」とはどのようなものか。詳しく教えてほしい。	都市機能とは、公共交通や道路、行政施設、医療、商業施設を指しており、人口減少局面においては、これらの分散・老朽化が大きな課題となります。また、本市は約482km ² の広い面積を有しており、人口動向に伴う地域環境の変化も様々であり、歴史的・文化的な特性も地域ごとに多様です。このことから、地域の状況に合わせて、最も効率的・効果的な都市機能の方向性を見定めながら、地域自主組織による課題解決型の住民自治によるまちづくりを進めてまいります。
4	戦略編 P.10	基本施策1「甲賀らしい、市民幸福度の高い「まち」を追求する」とあるが、何をもち市民幸福度を図るのか。基準や指標がこのままでは乏しいのではないか。	市民幸福度の感じ方は個人によって様々であり、判断する際に重視することも健康、家族環境、お金など多様です。このことから、幸福度の理想と現実の差をアンケート等で把握し、そのギャップを埋めることを目標としたものです。
5	戦略編 P.11	ブータンにおいては、「GNP（国民総生産）からGNH（国民総幸福量）へ」という提言がされている。基準の作り方など調査研究されたい。	ブータンのGNH（国民総幸福量）をはじめ、国内で幸福度について研究している自治体（東京都荒川区など）で構成された「住民の幸福実感向上を目指す基礎自治体連合」の活動を参考にしながら、今後調査研究を進めます。これらについては、今後策定する第2次甲賀市総合計画においても、位置付けたいと考えています。
6	戦略編 P.12	「ひと」を育てるうえで重要なのは「子どもたちの確かな育ち」である。質の高い教育環境を整えることを目標としてはどうか。	目標において、甲賀の未来を担う子どもの「確かな育ち」は、まちづくりの根幹であるとの考えから、より質の高い教育環境を整えることを追記します。
7	戦略編 P.13	日本においては、結婚は出産の入り口となる傾向が強い。「妊娠・出産・子育て」の前に「結婚」を入れるべきではないか。	「結婚」についても追記します。

第6回審議会でのいただいた意見（記載内容等を変更したもの）

甲賀市総合計画審議会

No.	該当箇所	いただいたご意見の要旨	ご意見に対する市の考え方
1	戦略編 P. 5	「賦存」という表現は、市民に馴染みがないので改めてはどうか。	「地域に賦存する様々な資源」から「地域にある様々な資源」に記載内容を変更します。
2	戦略編 P. 9	観光入込客数に「ゴルフ場利用客除く」とあるが、ゴルフ場も大きな地域資源だと思う。表現の仕方を改めてはどうか。	ゴルフ場を除くことなく、全ての観光入込客数を指標とするよう変更します。
3	戦略編 P. 10	「若者、女性、高齢者、来訪者など」と記載されているが、ここに「来訪者」のフレーズが入るのは不自然である。	市内での就業者や旅行者などの全ての交流人口を表したのですが、目標の内容には馴染まないと考え、「来訪者」の文言を削除します。
4	戦略編 P. 13	「全国学力・学習状況調査の結果（点数）」は目標値として適切か。子どもの”生きる力”は学力だけに限定するものではないと思う。	ご意見のとおり、”生きる力”は学ぶ力だけではなく、豊かな心、健やかな体や、家庭・地域の協力により育まれていくものと考えています。このことから新たに「児童生徒が読む書籍の数」と「運動やスポーツを習慣的にしている子どもの割合」を追加します。
5	戦略編 P. 14	窯業（信楽焼）、農業（茶）という表現は、（信楽焼）（茶）だけに特化するよう感じる。改めてはどうか。	農業は、米や野菜などの様々な耕作物があることから、茶だけを特別視するものではありません。信楽焼も同様です。「（信楽焼）」、「（茶）」については削除します。